

令和7年4月10日

令和7年4月15日

保護者の皆様

世田谷区立三宿小学校

校長 村田 奈緒美

令和7年度 三宿小 教育活動

三宿小学校の教育活動にご理解とご支援をいただきありがとうございます。

「笑顔があふれ、楽しく、幸せを感じる学校」を目指します。教職員一同全力で取り組んでまいります。本校の令和7年度の教育活動についてお知らせします。

昨年度の校内研究会では、教員の国語科の指導力向上のために国語科の専門の講師を招き文学的な文章の指導方法を研究しました。今年度は、昨年度の研究を踏まえて他教科においての指導方法の改善を図ります。世田谷区の施策でもある「探究的な学び」についても取り組んでまいります。

本校の特色を生かして、異年齢交流、特別支援学級との交流を通して、人とのコミュニケーション力を高め、一人一人の個性を大切にしつつも子どもたちがもっている能力・意欲・態度の向上を目指します。

教職員一同が子どもたちの笑顔があふれ、楽しい、幸せと感じられる学校づくりに向けて、小規模校の長所を生かして、全ての教職員が知恵を出し合い、率先垂範で一人を大切にする学校づくりに取り組みます。

1 教育目標

人権教育を基盤として、人間性豊かな心身共に健康な児童や何事にも意欲的に取り組む児童、他者と自身との違いを理解し、協働する児童の育成を目指す。また、多様性を理解する心情を育成する。そのために次のように教育目標を設定する。

○やさしい子

自分や他者のよさを認め、お互いを大事にする子

○がんばる子

試行錯誤を繰り返しながらも、主体的に取り組む子

○よく考える子

課題を発見し、考え、判断して解決する子

2 重点目標

(1) 互いに良さを認め合い、他者を尊重する心情と態度を育む。

(2) 自らの目標をもって自己を肯定し、自ら最善を尽くす意欲と態度を育む。

(3) 自ら学ぶ意欲をもち、考え、判断して解決する確かな学力を育成する。

3 教育目標及び重点目標を達成するための基本方針

(1) やさしい子（自分や他者のよさを認め、お互いを大事にする子）

◎互いの良さを認め合い、他者を尊重する心情と態度を育む。

○人権教育の推進

- ・いじめの予防、早期発見、早期対応を目指し、年間3回実施される「ふれあい月間」に、児童アンケートを実施し、児童の実態把握を行う。
- ・年3回、いじめ防止をめあてとした授業を全学級が実施する。道徳授業公開講座を実施する。
- ・全教員で児童の課題の共通理解を図る。

○コミュニケーション能力の育成

- ・あいさつの大切さを意識させ、来校者、地域の皆様、保護者の皆様に自分から先に挨拶できる児童の育成を目指す。
- ・「ありがとう」「ごめんなさい」が、互いを認め合うことにつながることを児童に伝え、実践できる児童を育成していく。
- ・WEBQU調査結果を活用し、児童の自己肯定感を高める手立てを考え、いじめ・不登校の防止につなげる。

○にじいろ班活動、異年齢による活動（委員会活動・クラブ活動・遠足等）

- ・遊びを通して、楽しさを感じるとともに、他者を理解し行動する力を育成する。
- ・にじいろ班活動を通して、自己有用感、自己肯定感を養う。下級生が上級生をよき手本として、かわれるように、指導・支援を行う。

○保幼小中の連携

- ・「泉の学び舎」において、6年生が三宿中学校体験（授業・部活）を行う。
- ・幼稚園、保育園を招き昔遊び等の交流を行う。

○特別支援教育

- ・年間を通して、特別支援学級と通常学級の交流活動を行い、互いを認め合う活動を実施する。
- ・わかば学級の児童が、学校行事及び学習活動に参加し、三宿小学校の一員として、楽しい学校生活を送れるよう指導を行う。
- ・全教職員が、配慮を要する児童の特性について理解を深め、特別支援コーディネーターを中心に特別支援校内委員会を運営する。

（2）がんばる子（試行錯誤を繰り返しながらも、主体的に取り組む子）

◎自らの目標をもって自己を肯定し、自ら最善を尽くす意欲と態度を育む。

○運動月間、運動週間の実施 休み時間の校庭での遊びの充実

- ・跳ぶ、走る、投げる活動を通して、体を動かす楽しさ、目標を達成する喜びを感じられる活動を実践

○読書活動の充実 認知能力、非認知能力の向上

- ・児童の発達段階に応じた課題図書を設定し、目標達成に向けて取り組む。
- ・「読書」は、語彙力や読解力を高めることで、思考力や想像力も高まる。
- ・本を読み続ける「根気強さ」の非認知能力と、語彙力や読解力のような認知能力を身に付ける。

○キャリアパスポートの活用

- ・現在の自分が学んでいることや、体験活動から得た興味・関心がなりたい自分につながる活動を行う。

（3）よく考える子（課題を発見し、考え、判断して解決する子）

◎自ら学ぶ意欲をもち、考え、判断して解決する確かな学力を育成する

○校内研究の実施

- ・「せたがや探究的な学び」を目指す授業づくりを行う。子ども同士が共感や協働を基盤とした一人一人の問いの追求の場とした授業を行っていく。
- ・教員が、総合的な学習の時間を通して、問題解決型の授業展開を行い、探究的な学習プロセスを実践

し、児童の探究的な学びを行う力の育成を図る。

- ・授業の展開において、ペア、グループ、学級の単位で、交流活動を取り入れる。自分の考えを話し、他者の考えを聞き、自分の考えを深める学習活動を行う。

○ICT機器の活用

- ・一人1台のタブレット端末を有効活用し、45分間の授業内容を充実させていく。
- ・ICT機器を活用し、他者との意見交流を円滑に行う。
- ・ICT機器である電子黒板、実物投影機、タブレット端末、プロジェクターを授業内容、授業展開に合わせて、活用していく。

○外部講師、地域人材の活用

- ・外部講師や地域人材の専門的な話を聞く機会をつくる。例えば、区選挙管理委員会、租税教室の方々の話を聞く。消防署、ごみ処理担当区職員の方々の話を聞く。
- ・スポーツ団体、文化団体等と連携していく。

○朝学習の充実

- ・朝の短時間を利用して、集中して学習する習慣を身に付けさせる。
- ・1年生、2年生、3年生は、10分間読書を週1回設定して実施する。
- ・3年生以上は、朝学習をモジュールとして扱い、英語・国語の授業時数に入れる。

（４）学校における働き方改革の推進

○ICTの活用

○会議・行事の効率的な運用

○授業の充実と効率化

○副担任の活用